

## 日本万博開催史

犬飼 英明 (P-49178・東京)

2025年は20年振りの万博イヤーです。日本では1970年の日本万博覧会を皮切りに、沖縄海洋博、つくば科学万博、大阪花博、愛・地球博と5回の国際博が開催され、今年は大阪・関西万博が開かれます。

こうした歴史を振り返り、日中戦争で中止された紀元2600年記念万博の記録も含めて、日本の万博の歴史を非郵趣品も含めて展示します。

(JAPEX2024「ベスト・オープン賞」受賞作品)



### 10. 百花繚乱のパビリオン (2)

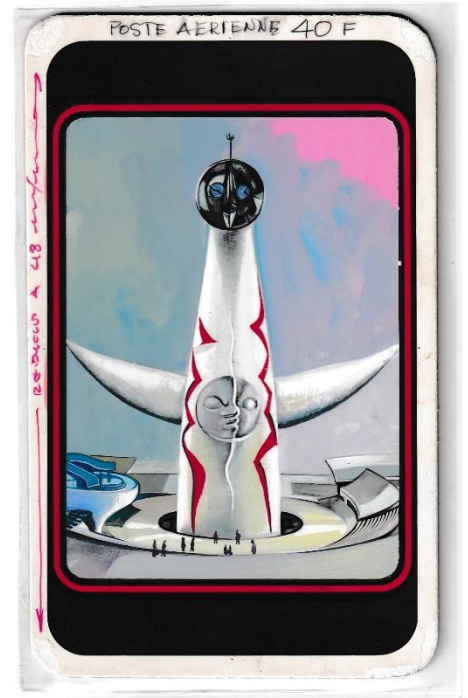
テーマ館でもある太陽の塔は岡本太郎の企画設計による万博の中心の建造物であった。高さ70メートルの塔の内部には生物の進化を象徴する「生命の塔」が表現され、観覧者の人気を集めた。会期終了後は万博記念公園に移設され、登録有形文化財に指定されている。

ブルンジ70 40F 太陽の塔切手の原案

ブルンジ70 無目打



ハイチ72



### 10. 百花繚乱のパビリオン (4)

アフリカからは独自のパビリオンを出展したアルジェリアや中央アフリカなど14カ国が参加。オセアニアからはオーストラリアとニュージーランドが出展し、ユニークなパビリオンが人気を呼んだ。



大蔵省印刷局製造絶版



### 1. 皇国日本の万国博 (1)

日本が初めて開催しようとした万博は日本書紀に基づく建国2600年を祝賀し、関東大震災からの復興を世界にアピールすべく計画された。東京・横浜を会場に「東西文化の融合」をテーマに4500万人を来客する特別博として認定され、1937年には東京五輪と共に開催が決まっていた。東京市中央区勝鬨橋は会場までの輸送路として建設され、東洋一の可動橋と謳われて世界に日本の技術力を示す予定であった。



1937年に東京府・東京市・神奈川県・横浜市と同商工会館所・国が合同で社団法人日本万国博覧会協会が設立され、翌年、秋夕宮雅仁親王を総覧に、近衛文磨首相を副総覧と決定した。同年4月に総覧奉戴式を挙行した際に、唯一の記念特印が使用された。この後、記念切手発行や記念消印の使用はなく、日中戦争激化によって、同年7月に延期・中止となった。



博覧会総覧秋夕宮雅仁親王奉戴式  
記念特印 1936・4・21 東京中央局

金貨を指(紀元2600年記念切手  
1940年発行

九州を代表するグラフィックデザイナー中山文孝による公式ポスターの結業書と解付付き袋

